

私立大学図書館協会
2008年度第1回東西合同役員会議事要録

日 時：2008年9月10日（水） 午後2時～午後4時20分

場 所：國學院大學 若木タワー地下1階・第2会議室

出席者：出席者名簿（別紙）参照

議事に先立ち、会長校挨拶の後、出席者の自己紹介が行われた。
議事進行は、古城利明中央大学図書館長が担当した。

1. 報告事項（2008年4月～2008年7月）

(1) 協会会務報告

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.3-5）にもとづき報告が行われた。

(2) 東地区部会会務報告

東地区部会長校帝京大学（中嶋）、東地区研究部担当理事校東京経済大学（丸本）から配付資料（p.6-9）にもとづき報告が行われた。

(3) 西地区部会会務報告

西地区部会長校大阪学院大学（矢田部）、各地区協議会理事校から配付資料（p.10-24）にもとづき報告が行われた。

(4) 委員会報告

1) 研究助成委員会報告

研究助成委員会委員長（龍谷大学：甲野）から配付資料（p.25）にもとづき主として次のような報告が行われた。

①審査ガイドラインの作成について

審査基準や助成経費の範囲についてなど、明文化したものが無いことから、ガイドラインを策定し、2008年度審査（2009年度研究助成）から適用することとした。内容については、今後も適宜委員会で見直しを行う予定である。

②2008年度研究助成・保留分の対応について

2007年度第2回東西役員会で報告したとおり、1件が保留になっていたが、追加資料などを審議した結果、追加採択された。

2) 国際図書館協力委員会報告

国際図書館協力委員会委員長（東京経済大学：丸本）から配付資料（p.25）にもとづき主として次のような報告が行われた。

①海外集合研修

12月に韓国で行う海外集合研修の申し込みが9月22日までとなっている。10名の予定だが、現時点では問い合わせを含めて5名程度であるため、応募を増やすために役員校も協力して欲しい。

3) ホームページ委員会報告

ホームページ委員会委員長（駒澤大学：川越）から配付資料（p.26）にもとづき主として次のような報告が行われた。

①サーバ移行報告

3月21日に作業が完了し、容量が1GBから60GBに増加した。

②協会ホームページの加盟館名簿

5月20日に協会ホームページ上に新名簿を公開し、名簿として必要な情報が掲載されるようになった。

(5) 協会関連事項報告

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.27-29）にもとづき主として次のような報告が行われた。

1) 国公立大学図書館協力委員会報告

①SCOAP³について

量子物理学の電子ジャーナルに関する助成の提案がCERNから行われている。電子ジャーナルの出版社に値引きをさせて、差額を出版費に充当するというような内容で、日本では、総額約1億円を負担して欲しいとのことであった。国公立大学図書館協力委員会では検討が行われており、私立大学図書館協会としては推移を見守ることとする。

2) 後援について

資料にあるとおり後援を行うが、名義使用のみで、経費は発生しない。

(6) 2008年度協会役員校、委員会および協会関連団体委員について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.30-32）にもとづき報告が行われた。

(7) 協会ホームページサーバ移行作業について

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.33）にもとづき報告が行われた。

(8) 「協会HP有料サイト利用料」の支払いについて

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.33）にもとづき報告が行われた。

1) 予算執行について

契約変更にともない2008年3月に急遽2008年度分利用料の追加支払いを行った。そのため、2007年度は2年分支払ったことになっている。来年度以降は3月に翌年度分を前払いするサイクルとなる。

(9) IFLA退会手続きについて

会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.33）にもとづき報告が行われた。

- (10) 次々期役員校、総会当番校の選出について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.34）にもとづき報告が行われた。
- (11) 委員会委員、関連団体委員の選出について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.34-35）にもとづき報告が行われた。
- (12) 2008年度研究助成について（追加分）
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.36）にもとづき報告が行われた。
- (13) 研究助成委員会 審査ガイドラインについて
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.36-37）にもとづき報告が行われた。
- (14) 公私立大学図書館コンソーシアム（PULC）への宛名シール提供について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.37）にもとづき報告が行われた。
- (15) 2008年度行事・会議予定について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.38）にもとづき報告が行われた。

2. 協議事項

- (1) 2007年度一般会計決算・特別会計決算報告（案）について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.39-41）にもとづき、2007年度一般会計ならびに特別会計に関する決算について提案が行われた。
続いて、監事校を代表し駒澤大学（佐藤）から配付資料（p.42）にもとづき、2007年度一般会計収支決算書・特別会計収支計算書について監査を行った結果、適正に処理されている旨の報告が行われた。

協議の結果、提案のとおり承認された。

- (2) 2008年度事業計画（案）について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.43-46）にもとづき、主として次のとおり説明ならびに提案が行われた。
「本事業計画（案）は、p.43のとおりテーマと文言を若干変更した他、すべて2008年3月開催の東西合同役員会において提案・説明した内容である。」

協議の結果、提案のとおり承認された。

- (3) 2008年度一般会計予算および特別会計予算（案）について
会長校中央大学（荒木）から配付資料（p.47-50）にもとづき、2008年度一般会計な

らびに特別会計に関する決算について提案が行われた。

1) 一般会計

①【収入/会費】：昨年度末の加盟校506校を基礎数として算出。

②【支出/協会HP有料サイト利用料】：契約変更により92,400円減額。2007年度で2008年度分を支払ったので、今後は前年度に翌年度分の利用料を支払うサイクルとなる。

③【支出/IFLA負担金】：値上げ、円安で12,000円増額。退会により2009年度予算からはなくなる予定である。

2) 研究助成特別会計

①【支出/研究助成金】：採択された結果に応じて予算計上。

3) 国際図書館協力基金特別会計

①【支出/シンポジウム参加費】：1回分で算出。しかし国際図書館協力委員会からの要請もあり、90万円に増額。開催については検討中。

4) 総会・研究大会特別会計

①國學院大學より提出された資料のとおり予算計上。

協議の結果、提案のとおり承認された。

(4) 新規加盟校(案)について

会長校中央大学(荒木)から配付資料(p.51)にもとづき、次のとおり説明ならびに提案が行われた。

「本年度の新規加盟校は8校である。本役員会で承認がなされれば総会に提案したい。」

協議の結果、提案のとおり承認された。

(5) 第70回(2009年度)総会・研究大会について

次期当番校佛教大学(藤堂)から配付資料(p.52)にもとづき、説明ならびに提案が行われた。

協議の結果、今後、佛教大学、会長校、次期会長校の3者で作業をすすめることで承認された。

(6) 2009年度—2010年度役員校について

会長校中央大学(荒木)から配付資料(p.53)にもとづき、説明ならびに提案が行われた。

1) 会則12条、13条では、「会長校は理事校の互選、理事校は東・西地区部会から5校、監事校は東・西地区部会から1校をそれぞれ選出」のうえ、総会承認となっているが、先々まで候補が決まっていたこともあり、これまで会則通りに行われていない状況であった。

- 2) 2007年度—2008年度役員校についても、確認のみで承認を受けていなかった。
- 3) しかし、役員校が既に決定している状況や、規程改正の手続き等については、かなりのプロセスを経なければならないことから、総会での手続きについてまず行うこととした。

協議の結果、提案のとおり承認された。

3. 懇談事項について

- (1) 第69回(2008年度)総会・研究大会当番校國學院大學(古山)から、当日のスケジュール等について説明があった。

- (2) 大学図書館の評価基準について

会長校中央大学(荒木)から、配付資料(p.54)にもとづき説明があり、次のような意見が出された。今後も会長校から相談したいという発言があった。

- 1) 提示された意見

- ①今年度東地区部会総会時の館長会でも、評価の問題を取り扱ったが、新任の館長が多く意見があまり出されなかった。しかし、資料は揃っているとの報告があった大学も存在したので、今後の参考にはなるだろう。
- ②自己点検・自己評価は大学の課題であり、図書館にとっても重要な課題である。他の評価機構に先立って評価基準を作成することで、実際に使用できるものとなるだろう。是非、推進していただきたい。

- (3) 私立大学図書館協会加盟図書館名簿について

会長校中央大学(荒木)から、以下の説明(資料無し)があり、次のような意見が出された。

- 1) 主な説明

- ①冊子の加盟図書館名簿には、予算が25万円計上されている。従来はもっと詳細なものであったが、情報を集めるのが大変であるにもかかわらず、配付までに変更されてしまうという問題点もあり、現在の形式で刊行されている。
- ②今年度は協会ホームページ上の加盟図書館名簿を一新し、冊子の名簿とほぼ同じ情報が掲載されているので、今後も冊子を作成する必要があるか意見を伺いたい。

- 2) 提示された意見

- ①協会ホームページ上の加盟図書館名簿でよいのではないかと。加盟実績を記録として残すならば、加盟年度などの情報を追加して掲載すればよい。
- ②その年度の加盟校数については、会報(奇数号:総会・研究大会記録)に大学名を記載している。
- ③冊子の名簿でできていることが、ホームページの名簿ではできないこともあるので、100%同じにはならない。

- ④協会ホームページも冊子の名簿も、同じ会長校管理の ACCESS のデータを使用しているが、協会ホームページでは、ひとつの大学で複数の URL は掲載できないなど、臨機応変にできないケースも考えられる。協会ホームページだけを見ても、各地区のホームページの掲載内容やフォーマットがばらばらになっているため、統一するかどうか検討が必要である。
- ⑤各地区のホームページの掲載内容やフォーマットは異なってもよいのではないかと。

ホームページ委員会と会長校で検討し、12月の第2回常任幹事会、3月の第2回東西合同役員会に提案することとした。

以 上

<資料訂正>

<誤>

- p. 11 8行目 2008年度第2回役員会(予定) → 2008年度第2回役員会
- p. 11 11行目 12大学 20名(予定) → 12大学20名
- p. 13 3-4行目 1回50名 3回実施(坐禅指導者2名)
見学グループ1班25名で6班にて構成(事前にグループ分け)
- 体験研修: 35名参加(A班: 17名、B班: 18名)
※ その他の参加者は見学のみ
- 9行目 2008年度研究会(予定) → 2008年度研究会
- p. 13 12行目 〇〇大学 〇〇名 → 92大学 118名(会長校1名、新規加盟申請校1大学1名を含む)
- p. 21 21行目 2008年度第1回(第294回) → 2008年度第2回(第294回)
- p. 21 27行目 2008年度第2回阪神地区協議会運営委員会(予定)
→ 2008年度第2回阪神地区協議会運営委員会
- p. 21 30行目 出席者: 6校 7名(予定) → 出席者: 6校 7名
- p. 21 35行目 4. その他 → 4. 2008年度第1回阪神地区研究会の運営について
- p. 21 37行目 2008年度第1回阪神地区研究会(予定) → 2008年度第1回阪神地区研究会
- p. 22 1行目 出席者: 校名(未定) → 45校 53名(阪神地区: 39大学 47名、京都地区: 5大学 5名、兵庫県大学図書館協議会: 1大学 1名)
- p. 24 4行目 ローテーション → ローテーション
- p. 53 7行目 跡見女子大学 → 跡見学園女子大学
- p. 63 11行目 跡見女子大学 → 跡見学園女子大学